

映画上映と映画監督講演会

日時：令和4年5月29日(日)

◆映画 13:30～15:10

「ぼけますから、よろしくお願ひします。」

◆講演 15:30～17:00

「認知症が私たち家族にくれたギフト」

会場：美浜町生涯学習センターなびあす

入場：入場無料(事前申込不要)

※コロナ対策のため、住所・氏名・連絡先・座席番号のご記入をお願いします。



©萩庭桂太

◆講師紹介◆

のぶとも なおこ
信友 直子 (映画監督・ノンフィクション作家)

◆プロフィール◆

1961年広島県呉市生まれ。
1984年東京大学文学部英文科卒業。
1986年よりテレビ番組の構成・演出を数多く手掛ける。
自らの乳がん闘病を描いたセルフドキュメント「おっぱいと東京タワー～私の乳がん日記」(2009年)でニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞。

ほか北朝鮮拉致問題、若年認知症、ひきこもりなど様々なテーマを手がける。

2018年、認知症の母と老老介護する父の日常を描いた映画「ぼけますから、よろしくお願ひします。」を公開し、ドキュメンタリー映画としては異例の20万人を動員する大ヒットに。

2019年10月、映画と同じタイトルで書籍化。また、令和元年度の文化庁映画賞文化記録映画部門で大賞を受賞。

2022年3月より続編映画「ぼけますから、よろしくお願ひします。～おかえり お母さん～」を全国公開中。同名の書籍も新潮社より発売中。

主催：美浜町人権尊重啓発協議会

共催：美浜町教育委員会

美浜町地域包括支援センター

令和元年度
文化庁映画賞
文化記録映画大賞

びあ映画
初日満足度1位
(11月3日発表)

第92回
キヌマ旬報ベストテン
文化映画3位

第43回
日本カトリック
映画賞

2018年度
全国映画賞
特別賞

第35回
日本映画
復興奨励賞

文部科学省
特別選定映画

厚生労働省
推薦映画

認知症の母と耳の遠い父と離れて暮らす私—
ぼけますから、
よろしくお願ひします。

ドキュメンタリー映画

広島県呉市。泣きながら撮った1200日の記録

監督・撮影・語り
ひとり娘 **信友直子**

プロデューサー：大島新 演出 共同プロデューサー：前田聖紀 岡治樹 山口浩史
編集：目見田健 美術撮影：南幸男 音響効果：金田智子 ライン編集：池田聡 監音：高水憲一
配給宣伝協力：ボレボレ東中野 ワッキー・プロダクション 製作・配給：ネツゲン フジテレビ 関西テレビ
2018年/日本/カラー/102分/©「ぼけますから、よろしくお願ひします。」製作・配給委員会

www.bokemasu.com



カマウを向け、初めて気づいた。 両親がお互いを思い合っているということ。



**母、87歳、認知症。
父、95歳、初めての家事。**

広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めそめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ファイナードーを通し、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決意がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしができる。あんたはあんたの仕事をして」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—

**大反響のテレビドキュメンタリー、
待望の映画化。**

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ/関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。



港町呉は坂の多い町でもあります。買い物するにも一苦労。結婚以来、父と母はずっとここで暮らしてきました。

ひとり娘
ドキュメンタリー監督
信友直子



1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金賞奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。

「© 2018 「ぼけますから、よろしくお願ひします。」製作・配給委員会」



ドキュメンタリー映画

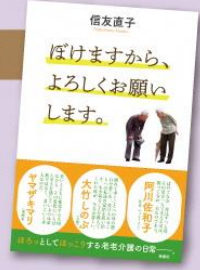
ぼけますから、 よろしくお願ひします。



監督書き下ろしによる待望の書籍化!

あのシーン・この場面を撮影した時の心情、映像には入れなかった出来事、そして現在の信友家の様子まで、読めばまた映画が見たくなる感動作です。

「ぼけますから、よろしくお願ひします。」信友直子 著
(株)新潮社 / 1,500円(税込) / 2019年10月21日刊行 / ※全国書店でも発売中



新型コロナウイルス 感染症対策について

ご来場の際には、下記の「ご来場の皆様へ」「感染予防措置について」を必ずご確認の上、ご来場いただきますようお願いいたします。
新型コロナウイルスの感染状況により公演を中止させていただく場合がございます。

ご来場の皆様へ

- ・ご来場の際は、マスクの着用をお願いいたします。
- ・ご来場前に、検温など体調管理のご協力をお願いいたします。発熱、咳などの症状がある場合は、ご来場をお控えください。
- ・手洗いや手指消毒、咳エチケットのご協力をお願いいたします。
- ・入退場の際に可能な限り間隔を広くお取りいただき、ソーシャルディスタンスの確保にご協力ください。

感染予防措置について

- ・非接触式体温計での検温を行います。検温の結果、37.5度以上の発熱が認められた方は大変申し訳ありませんがご入場をお断りいたします。
- ・座席は間隔を空けてのご利用とさせていただきます。
- ・ホール内は常時空調設備を稼働させますが、換気を優先するため十分な空調効果が感じられない場合がございますのでご了承ください。
- ・館内設備、備品の消毒・清掃を強化しています。